

## わかやまの美しい棚田・段々畑

### 平成26年認定地区

名称

芋谷の棚田

保全団体

柱本田園自然  
環境保全会

所在市町村

橋本市

620a



橋本市の北東部、葛城山系の芋谷川沿いにあり、450年以上前の室町時代に開拓されたと言われている。柱本田園自然環境保全会が主となり、芋谷川一帯の環境保全や、地元小学生との生き物調査を実施している。

また、柱本「花街道」プロジェクトとして、そばや菜の花等景観作物を作付し、里山ウォーキング等を行い、周辺住民との交流促進を図っている。

名称

山田原の段々畑

保全団体

山田原集落

所在市町村

有田市

1,600a



有田市内の山間部には、先人達が開墾し現在まで受け継いできた石垣積みの段々畑が山頂近くまで広がっている。山田原の段々畑は平均勾配が約28度と急傾斜であるが、南向きで高品質のみかんが収穫される。段々畑を縫うように張り巡らされた農道の補修や、スプリンクラー施設による共同かん水・共同防除により有田みかんブランドを守っている。

また、26年度には毎年有田市が開催している「みかんの花街道ウォーク」の散策コースとなり、段々畑の景観と白い花の咲く甘い香りを楽しんだ。

名称

あらぎ島(棚田)

保全団体

あらぎ島景観  
保全保存会

所在市町村

有田川町

230a



旧清水町のほぼ中央部、有田川の浸食によって舌状になった独特の河岸段丘に江戸時代開墾された。あらぎ島景観保全保存会により、地元小学校の稻作学習の指導のほか、有田川町のふるさと開発公社が開催する田植え・稻刈り・キャンドルライトイルミネーションなどのイベント会場として提供している。

平成11年に農林水産省が認定する「日本の棚田百選」に本県で唯一認定され、平成25年には文部科学省の重要文化的景観に「蘭島及び三田・清水の農山村景観」の名称で選定された。

名称

龍神村下廣井原の棚田

保全団体

仮屋集落

所在市町村

田辺市

400a



龍神村の中央部、日高川沿いにあり、農地や水路の保全、獣害防止ネットの設置を集落の共同活動として行っている。近年、ヤーコン（オリゴ糖などが豊富に含まれ、健康食品とされるイモ）の栽培を始めており、「健康のむら龍神」プロジェクトとして、ヤーコンを活用した小学生の農業体験や学校給食への提供、レシピコンテストなどを実施し、入賞したレシピは、龍神温泉や地元飲食店に配布するなど、棚田保全と地域活性化に取り組んでいる。

名称

小阪の棚田

保全団体

棚田を  
守ろう会

所在市町村

那智勝浦町

169a



那智勝浦町のほぼ中央部、那智山の南西にあり、平均1aに満たない小面積の水田が広がる町を代表する棚田。小阪集落住民と1ターン者により組織された棚田を守ろう会が、30年あまり耕作放棄されていた水田を復元し、米づくりを続けており、稻作以外にも、しめ縄作りなど年間を通して都市住民との交流イベントを実施、棚田を維持していくことの重要性を訴えている。

また、棚田を守っていくためにはその地に住み、田を耕作する者が必要不可欠という思いから、定住促進活動等も積極的に取り組んでいる。

## 平成27年度認定地区

名称 沼谷(天空)の棚田

保全団体 沼谷区

所在市町村 有田川町 124a



旧清水町北東部の標高600m程度に位置していることから、地域の方々は「天空の棚田」と紹介している。平均年齢が清水町の中でも高い地区だが、限界を「元快」と書き替え、前向きに地域活動に取り組み、水稻のほか、清水地域の伝統工芸品「保田紙」の原料であるコウゾを栽培し、紙すきから販売の実施や体験の受け入れを行っている。また、和歌山大学の農業農村交流サークル「アグリコ」と協定を締結し、棚田の保全や地域の伝統行事による交流を継続的に実施している。

名称 温川(ぬるみがわ)の棚田

保全団体 温川区

所在市町村 田辺市 300a



田辺市中辺路町の北西部にあり、地域でブランド米「霧の精」の生産に取り組んでいる。「霧の精」は化学肥料と農薬の使用を通常より半減して栽培する県の「特別栽培」の認証を受け、さらに自然乾燥させたもので、生産者とJAが連携して、勉強会や現地確認を実施し、品質確保に取り組むことにより、通常より高価格で販売されている。また、稻わらを活用した「しめ縄」づくりが盛んで、直売所での販売や地域住民を対象とした「しめ縄づくり体験」による交流も行っている。

名称 南平野の棚田

保全団体 南平野区

所在市町村 那智勝浦町 450a



那智勝浦町のほぼ中央部にあり、那智山西側の山間部に位置する旧色川村の玄関口となっている。平成23年の水害の復旧工事後、農家だけでなく、地区全体で農地や水路の保全に取り組んでいる。水稻のほか、気候を生かしたお茶の栽培も盛んで、棚田と茶畑が混在した景観をなしており、地区的婦人会が、野菜の栽培や漬け物などの加工品について、お年寄りから知識や技術を伝承するため、原材料となる野菜を遊休農地で栽培する取り組みを行っている。

## 平成28年度認定地区

名称 沼の棚田・段々畑

保全団体 沼の農業をまもる会

所在市町村 有田川町 1, 261a



旧清水町の北部に位置する沼集落の南向き斜面を中心に、棚田と山椒畑が広がっている。水源の谷水が豊富ではなく、水不足が常に問題となっていたことから、江戸時代に土質・面積・湧き水の状況を考慮した「分水計水極み帳」が作成され、現在もこれをもとに水の配分が行われている。

また、和歌山大学観光学部のボランティアグループ「棚田ふあむ」と棚田の保全や地域の伝統行事を通じた交流を実施しており、平成25年に有田川町で開催された「全国棚田(千枚田)サミット」では現地見学会場として、住民総出で案内やおもてなしを行うなど、地域活動が活発である。